

8003 ぼくが若い頃、若い娘はみんな中年の男に憧れてました。

ぼくが若い頃、若い娘はみんな中年の男に憧れてました。それをぼくは、ものすごく裏切られたような気分で見ていた。この若くて、未熟で、貧乏で、青白い男に、あなたたちが見向きもしなかったら、そういう男は救いがたいじゃないか、と思った。そんな中で、財産も何もない、すべてがこれからという男に賭けてくれたのが女房です。だからぼくにとっては女房が最高なんです。

『クロワッサン（美しい四十代—米倉斉加年）』

[許容訳例]

When I was young, all young girls were attracted by middle-aged men. I felt bitterly cheated. If they ignored completely an inexperienced, poor, and pale-faced young man like me—I said to myself—what hope was there for him? Yet one of these girls, my wife, risked her life on me, who had no property, only a future. So, my wife is everything to me.

[翻訳例]

When I was young, the girls were all interested in older men. I watched them with a terrible sense of betrayal: if young girls like that were going to turn up their noses at someone just because he was young, inexperienced, poor, and pale-faced, what hope was there for the likes of me? Yet one of them—my wife—was willing to risk herself on me even though I had no property, nothing but a future. So, to me, my wife is everything.

■ぼくが若い頃、若い娘はみんな中年の男に憧れてました。 (8003)

★「ぼくが若い頃」は When I was young です。 In my youth とか In my young days と言いますが、これらは次に来る文の主語が I…となる場合が普通です。たとえば、In my youth, I used to do something.とか。それに、When I was young の方が「未熟で、何も知らない 二十四、五までの男」の感じになります。

◆無冠詞複数と定冠詞複数

★「若い娘はみんな・・・」は「概して若い娘は・・・」という一般論ととるなら (all) girls でいいのですが、ここでは「(自分と同じ世代の、当然自分の相手になっていいはずの,) その若い娘たち」という感じですから the girls の方がぴったりです。なお、「若い娘」には young girls とか young women とかも可能です。young ladies は必要以上にていねいで、何らかの感情が入ってしまうので、ここでは駄目です。

★「中年の男」はそのまま訳すと middle-aged men ですが、これは四十代、五十代を指します。（なお、五十代後半から六十代は elderly です）次に「憧れる」と言っているので、これでもいいのかもしれません、ここで言っている「中年の男」には 30 代の男も入ると思われます。そういう場合、現代の英語では middle-aged という言い方はしません。ですから、範囲が広く意訳になるかもしれません、ここでは older men とした方が日本語の感じに近いと思います。older men とすれば、30 代も入りますし、一応社会的地位も得ていると

いう感じも出ると思います。

★「憧れる」には *be attracted by*…とか *be fascinated by*…も使えますが、*be interested in*…でいいでしょう。「興味をもつ」の他に、文脈によっては「～に惹かれる・～に気がある」というニュアンスが出ます。辞書で「憧れる」を引くと *yearn for*…; *long for*…が出ていますが、これらは「自分がよく知っていて、好きなんだけど、今ここにいないから会いたい・恋しいとか今ここにないからほしい」という感じです。*I long for my mother.*と言えば、「しばらく会っていないから会いたい」ですし、*I long for a cup of coffee.*は「(しばらく飲んでいないから) コーヒーが飲みたい」です。

■それをぼくは、ものすごく裏切られたような気分で見ていた。(8003)

★意味だけとって訳せば *I felt as if I had cheated [betrayed]*とか、*I saw this [it] as a betrayal*。ですが、「・・・のような気分で見ていた」は「実際に目の前でそんなことをしている女の子たちを眺めていた」という感じがします。それに対応するには *I watched them with a feeling of having been betrayed*とか *I watched them with a terrible sense of betrayal*とする方がいいでしょう。

■この若くて、未熟で、貧乏で、青白い男に、あなたたちが見向きもしなかったら、そういう男は救いがたいじゃないか、と思った。(8003)

★「この・・・男」の「この」は「このぼくのような男」と考えて *like me* でもいいのですが、後の「そういう男は・・・」と考え合わせると「自分でなく、すべてのそういう若者」を代表して言っているような感じがするので、*for a young man like me* あるいは、ちょっと卑下しているようにも感じになりますが *for the likes of me* でもいいです。

★「若くて、未熟で、貧乏で、青白い男」は *a young, inexperienced, poor, pale-faced man* でしょう。

★「(・・・男に) あなたたちが・・・」の「あなたたち」ですが、これには「当然われわれ若者たちの相手となるはずのそういうあなたたち」という含みが感じられるので単に *young girls* ではなく *young girls like that* と少し強めた方がいいでしょう。

★「見向きもしなかったら」の「見向きもしない」は *ignore completely* とか *take no notice of* を使って *If they ignored completely an inexperienced, poor, and pale-faced young man like me* でいいのですが、これは隨筆なので、「見向きもしない」はもう少し生き生きとした描写的な表現の *turn up their noses at*…がよいと思われます。さらに、「若くて、未熟で、貧乏で、青白い男に見向きもしなかったら」は英語的には論理的飛躍が感じられます。つまり「若くて、未熟で、貧乏で、青白い男に見向きもしなかったら」とは「若くて、未熟で、貧乏で、青白い（というだけの理由で、若い）男に見向きもしなかったら」ということです。したがって、*if young girls like that were going to turn up their noses at a young man just because he was young, inexperienced, poor, and pale-faced*…としたくなります。

★「救い難いじゃないか、と思った」の「救い難い」は *there is no hope for*…くらいでよいと思います。これは必ずしも「希望がない」とか「望みがない」という意味ではなく「どう

にも仕様がないじゃないか」くらいの意味です。なお、ここで *he would be utterly helpless* というような言い方はできません。*helpless* というのは「具体的なもの〔こと〕に対してどうしようもない」、つまり運命の前では *helpless* だとか、「手を貸そうと思ったけどだめだった」とかの場合の使いますから「どうすることもできない」という意味になります。

★「・・・と思った」は、論理的根拠があるわけではないので *I thought* ではなく、ここでは *I felt* とか *I said to myself* です。

■そんな中で、財産も何もない、すべてがこれからという男に賭けてくれたのが女房です。

(8003)

★「そんな中で」は *one of them* です。

★「財産もない、すべてこれから・・・」は *have no property, only a future* でもいいですが、日本語の含みをもっと出すと、*have no property, nothing but a future* の方がいいです。なお、*future* は抽象的で数えられないと思われがちですが、習慣的に冠詞を付けます。これは *past* も同じで、たとえば「過去のある女」は *a woman with a past* です。

★「賭けてくれた」の「賭ける」は *risk* あるいは *stake* ですが、前置詞に注意が必要です。たとえば、*risked her life for me* と言うと「命を賭けて危ないところを助けてくれた」ですが、*risked her life on me* と言うと「私に賭けてくれた」です。*stake* も同じです。たとえば、作家が *I stake my future on this book* と言えば、「これでも評判がよくなれば自分は駄目だとあきらめる」という気持ちをこめて「この本に賭ける」ということになります。ところで、ここは「賭けた」ではなく「賭けてくれた」となっています。この中には「嫌がらずにすすんで」というニュアンスがありますから、その感じが出るように(*my wife*) *was willing to risk herself on me* としたいです。

●「連体修飾節+体言」を *even though* で処理する

「財産も何もない、すべてがこれからという男」は「連体修飾節+不定代名詞的体言」ですから「名詞・代名詞+関係節」で処理できるように見えますが、「男」とは「私」ですから、潜在的に「連体修飾節+特定体言」です。したがって、関係代名詞を使うなら、「人称代名詞(me)+コンマ+関係詞(, who...)」、つまり、*risked herself on me, who had no property, ...* となります。ただ、この日本文は「そんな中で、財産もない、すべてがこれから（というのに、ぼくのような）男に賭けてくれた」と読めるので、*my wife was willing to risk herself on me, even though I had no property, nothing but a future* と翻訳するのが適当と思われます。

■だからぼくにとっては女房が最高なんです。(8003)

★「だから」は *so* でいいでしょう。

★「ぼくにとっては女房が最高なんです」は *my wife is everything to me* ですが、*to me* は先頭に出した方が「ぼくにとっては」の感じがでます。

◆コロン(:)と間接話法

この日本文は

①ぼくは若い頃、若い娘は・・・だった」

②この若くて・・・には救い難いじゃないか。

③だからぼくにとって・・・だ。

となっています。つまり、①と③の地の文の中に②という直接話法の文が挿入されているのです。日本文では、直接話法の文をカギ括弧なしで地の文に加えるのは普通ですが、英語では普通はできません。ここでは、幸い、直接話法の部分が、すぐ前の「ものすごく裏切られたような気分で見ていた」を、内容的に具体的な言い換えになっているので、「・・・と思った」の I felt とか I said to myself を途中に挟み込むようにして、コロン(:)の最も基本的な使い方「すなわち」として、間接話法で具体的に伝えることができます。